令和８年４月１日
校長　今宮　直樹

烏山学舎　世田谷区立武蔵丘小学校
令和８年度　学校経営方針 について

１　子どもの育成の基本的な考え方

学校は、一人だけでは学べないことをたくさん学ぶことのできる集団生活の場である。子どもたち同士や教師が支え合い、切磋琢磨しながら心身を鍛え、自分のよさを発揮し、成長していける教育活動を家庭、地域と連携して進めていくことが大切である。

本校の教育活動においては、一人一人を大切にした教育を推進し、全ての教職員・子どもが人権尊重の理念を正しく理解し、互いの人格を尊重し合う教育活動を行う。認め、励まし、自信をもたせる教育を推進し、子どもたちが「今日の１日は、楽しかった」「明日も学校が楽しみだ」と思えることを目指し、困難なことにくじけず、自信と意欲をもって生きていくためのたくましさ（レジリエンス）を身に付けさせる教育活動を目指す。

また、子どもたちを健全に育てていくためには、保護者・地域の方の声を聴きながら協働体制を築くことが重要である。保護者からの相談は、貴重な意見として、保護者の気持ちに寄り添いながら共に解決していく姿勢を示す。そして地域の教育資源を活用した「せたがや探究的な学び」を充実させ、地域運営学校として地域とともに子どもたちを育てる教育を実現し、地域に貢献できる学校をつくる。

今後も半世紀を経た、武蔵丘小学校の輝かしい歴史と伝統を後世に引き継がれるよう、全力で取り組んでいく。

２　学校の教育目標

人権教育を基盤とし、子ども一人一人が個を尊重し合い、未来に希望と自信をもち、知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな子どもの育成を目指し、以下の「三気」の目標を掲げる。

○「元気」　心身ともに元気な子ども
○「本気」　本気でうちこむ子ども
○「根気」　根気強く取り組む子ども

日々元気で、本気でうちこむことができる教育活動を展開し、一つ一つの活動に根気強く取り組むことによって力を身に付け、自信をもって行動できる子どもを育てる。

３　学校経営の基本方針

本校の教育目標である、元気・本気・根気の具現化の推進に努める。また、本校のこれまでの歴史と伝統に誇りをもつとともに、地域への感謝の気持ちをもって貢献し、子どもたちの生涯の礎となる教育活動を展開する。

さらに「チームむさし」の精神で、本校に関わる全ての子どもと教職員・保護者・地域が一体となって連携協力し、相互の信頼に満ちあふれた、温かい学校づくりに努める。

【目指す学校像】

「笑顔あふれる武蔵丘小学校」

・人権尊重・自尊感情の醸成を教育活動の基底とする
・全ての教職員で全ての子どもを育てる

〇子どもが笑顔でいる学校　　－子どもが主役の学校づくり－

・友達大好き、先生大好き、学校大好きと感じている。
・自分のよさに気付き、自分の成長に喜びを感じている。
・自分を大切にし、友達を大切にし、互いに学び合い、高め合っている。

〇教職員が笑顔でいる学校　－教職員が高め合う学校づくり－

・武蔵丘小学校に愛着をもち、誇りに思っている。
・子どもに愛情を注ぎ、どんな課題に対しても、教職員が一丸となり、解決に向かっている。
・教育のプロ意識をもち、互いに切磋琢磨しながら研鑽に励み、自分の力と個性を発揮している。

〇家庭・地域が笑顔でいる学校　－家庭・地域と協働する学校づくり－

・子どもの成長をともに喜び、期待と信頼に応え、保護者や地域の誇りとなる学校。
・子どもの「健康・安全・人権」を第一に考え、安心して通わせることのできる学校。
・保護者や地域と協働し、地域に密着した教育活動を行い、努力・発展し続ける学校。

（１）人権尊重教育と生命尊重教育の徹底

差別や偏見のない人権を尊重する指導と、自他の生命を大切にする生命を尊重する指導を徹底し、「いじめや差別を絶対許さない」という毅然とした態度を示すとともに、子どもたちが好ましい人間関係を構築できるような指導を行う。また、一切の体罰を根絶し、子どもたちが心豊かに学校生活を送ることができるようにする。

・個性や特性を尊重し、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認め、それを言動に表せる指導を行う。
・人との関わりに欠かせない、挨拶や返事などを認識させ、良好な人間関係を築かせる。

（２）自己実現や自己肯定感を高めるキャリア・未来デザイン教育の推進

子どもたちが自分の生き方を見つめ、将来への夢と希望をもてるようにする指導を行い、自らのよさを自覚し、自信ややる気をもって社会に参画する力を育成する。

・子どもが自らのよさを自覚できるような「褒める・励ます・認める」などの働きかけを積極的に行う。
・子どもが自分の可能性に気付き、その可能性を広げられるような自己実現できる活動を意図的・計画的に行う。

（３）思いやりの気持ちと豊かな人間性の育成

物事を相手の立場になってよく考え、思いやりや共感の気持ちをもって他者と関わることができる、心豊かな子どもを育成する。

・特別の教科　道徳を中心に、全教育活動において子どもの心に根ざした心の教育を推進する。
・集団生活におけるマナー・モラル・ルールなどを遵守させることを徹底し、人との関わりで生きるための社会性を身に付けさせる。

（４）学びの基礎を徹底し、個別の教育的ニーズに応じた教育の充実

子どもたちが「分かった」「できた」「またやりたい」と達成感や充実感を感じる学習ができるよう、授業改善した分かりやすい授業を行う。

・学習規律の徹底し、学力が身に付くよう系統的・組織的な指導をする。
・学力調査やWEB・QU調査の結果分析を生かして、個の学びに寄り添う、きめ細かい指導を行う。

（５）「主体的・対話的で深い学び」の実現

学習指導要領や世田谷区教育要領、「せたがや探究的な学び」等を踏まえ、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育成するとともに、生活科・総合的な時間を活用し、探究サイクルを意識した、児童の主体的・対話的・深い学びへの指導を一層推進し、授業の質的変換を図る。

・自ら計画して学習を進め、他者との考えを比較・関連し、自分の考えを再構築するなど、自ら学びをつくる力を育てる。
・読書活動や体験活動、問題解決的な学習の充実を図り、実感を伴った学びを重視する。

（６）健康・安全教育の充実

朝遊びを特設し、授業で親しんだ運動や休み時間の遊びをも生かし、日常的に子どもたちが運動に親しめ、安全も意識できる環境を整備する。

・健康教育として体育授業の充実を図り、日常的に運動に親しみ、子どもたちがめあてをもって体力向上に取り組めるようにする。
・安全教育として危機管理能力を高める指導を推進するとともに、共助に当たる社会貢献できる力も身に付けさせる。

（７）地域に根差した教育の推進

地域運営学校として、地域学校協働推進員や学校支援コーディネーター、ボランティアを生かした「学校支援地域本部」の充実を図る。

また、社会に開かれた教育課程を目指し、「チームむさし」として地域と共有・協働する教育課程を実施する。

・学校運営委員会を学校運営協議会と改変し、地域学校協働推進員や学校支援コーディネーター等と連携し、地域等の外部人材を活用した体験的な活動を推進し、キャリア・未来デザイン教育の充実を図る。
・学校運営協議会による学校評価の結果を生かし、教育活動の改善に努める。